

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成 25 年 12 月発行 No.39 号



トックリキワタ

「第6回 西表島人（イリオモテシマピトゥ）文化祭」に参加

11 月 16 日（土）に西表エコツーリズム協会の主催で、西表島中野わいわいホールで開催された「第6回西表島人（イリオモテシマピトゥ）文化祭」に初めて参加しました。西表島森林生態系保護地域やマングローブを構成する樹種や、西表島の巨樹・巨木のサキシマスオウノキやオヒルギなどのパネルを作成し展示するとともに、マングローブの樹種や、花を掲載したクリアファイルなどを配布して、西表森林生態系保全センターの活動などを理解してもらう取り組みをしました。

配布したクリアファイルなどは西表島の植物がよく分かったら非常に好評でした。



当センターの展示パネルを観覧する人々

船浦中学校のテドウ山登山を支援



船浦中学校のみなさん

11 月 2 日（土）に、船浦中学校の三大行事であるテドウ山登山が実施され、当センターも森林環境教育の一環として参加し支援しました。

当日の参加者は、生徒 27 名と職員、保護者、支援者ら合わせて総勢 67 名で、8 時に浦内川駐車場に集合し結団式を行った後、留守番の先生や父兄の見送りを受けながら浦内川上流の軍艦岩まで観光船で移動し、軍艦岩から本格的な登山を開始しました。途中マリユドゥの滝展望台やカンピレーの滝で休憩を取りながら、テドウ山（441.5m）を目指しました。急な傾斜などで滑りやすい箇所などがありましたが、12 時頃には山頂に到達しました。山頂で昼食を取った後、記念撮影や船浦中学校

を眺望し、12 時 50 分頃には下山を開始しました。ロープがないと下りられない箇所もありましたが滑ったり転んだりしながらも無事に下山しました。途中でピナイサーラの滝の上部を見学する人達もいて到着予定の時間には遅れましたが、全員が無事駐車場に到着しました。なお、駅伝部の生徒は、駐車場から学校まで走って帰りました。

JICA研修生を受け入れ

平成 25 年度の国際協力機構（JICA）による集団研修の一つである「住民参加による多様な森林保全」コースの研修生を 11 月 5、6 日に受け入れました。研修生は 11 カ国から 12 名が参加しており、5 日には沖縄県や西表島の地域概況などの講義を受け、6 日にはサキシマスオウノキ等の保全の現場を視察しました。

研修生の多くは熱帯地域の国からの参加であることから、西表島の現場等の視察では、気候や植生などの共通性などを感じながら、様々な質問等をしていました。西表島での経験が今後の彼らの活動に寄与できることが期待されます。



「住民参加による多様な森林保全」コースの研修生



「サンゴ礁をはじめとする沿岸生態系の保全とその持続的利用に関する総合研修」

また、11 月 25 日には、平成 25 年度の国際協力機構（JICA）による集団研修の一つである「サンゴ礁をはじめとする沿岸生態系の保全とその持続的利用に関する総合研修」の研修生 8 名を受け入れました。研修生は 6 カ国から 8 名が参加しており、「陸域の保全」ということで、サキシマスオウノキの保全現場を視察し、その後、西表島のマングローブ林等を含む森林等に関する講義を受けました。

研修生は沿岸生態系の保全等を担当する者が中心であったため、マングローブに関する講義については関心が高く、サンゴ礁だけでなく陸域の森林を含めた総合的な保全が重要なことについても理解が得られるようになり、今後の彼らの帰国後の活動に寄与で

きることを期待されます。

海岸林再生試験の在来種の植栽方法別生育試験プロット設定

7 月 26 日（金）と 8 月 9 日（金）に海岸林自然再生試験地において、在来種（フクギ・テリハボク）の植栽方法別生育試験プロットの設定を行いました。

この植栽方法別生育試験プロットは、侵略的外来種であるギンネムを駆除しながら、郷土種であり防風林に適しているフクギ・テリハボクを低コストかつ効率的で発芽、生育させるためにはどのような方法があるかを考察するためのものです。

まず、区域のギンネム等を伐採し防草シートを張り、その後、植栽する箇所に穴を開け、在来種を播種、ポット苗、コンテナ苗などによる植栽を行い、防草シートを設置しない区域との比較試験を行うことにしています。

なお、この外来種対策と植栽方法別生育試験については、10 月 22 日に行われた「森林の流域管理システム推進発表大会」で発表しました。



設置した防草シート

「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

8月27日(火)、西表島船浦の地域活性化施設(ときめきホール)において、「自然環境教育推進のための連絡会」を、西表島内の各小・中学校の先生、西表島等で自然観察会等の活動を行っている研究機関、行政機関、各種団体等の代表併せて12名に出席頂き開催しました。

この連絡会は、西表島における自然環境教育プログラムの実施に当たって、連絡会員による情報交換を目的として開催したものです。

会議では、24年度のプログラム活用報告や25年度すでに実施した活用報告、また、今後の計画等自然環境教育推進に向けての前向きな意見が出されました。

当センターとしては、これらの意見を踏まえ、次年度の学校行事が決定する前に、各機関で提供できるプログラムを集約のうえ、各小・中学校へ提供し大いに活用していただくよう取り組んでいきたいと考えていますので、皆様のご協力・ご支援よろしくお願い申し上げます。



自然環境教育推進のための連絡会

船浦湾ビーチクリーンを実施

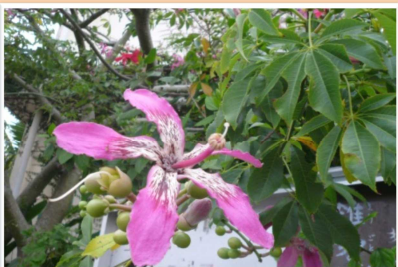
西表島のビーチクリーン活動を実施している西表エコツーリズム協会の活動に継続的に参加しており、船浦湾では4回目となるビーチクリーンを10月19日(土)に実施しました。今回は、カヌー組合のメンバーも参加して行われ、船浦湾のマングローブ林内にある漂着ゴミだけでなく、船浦湾に接続するヒナイ川、西田川周辺の漂着ゴミなども回収されました。一時は、海中道路からも発泡スチロールやブイなどの漂着ゴミが見える状態だった船浦湾がきれいになり、観光客などにも喜ばれる景色になりました。



平成25年5月10日定点観測時に撮影



平成25年11月7日定点観測時に撮影



トックリキワタ

別名(ヨイドレノキ)

ブラジル中南部、アルゼンチン原産の高さ20mくらいになる落葉性の高木で、幹がトックリ状になり表面に棘があるのが特徴です。

落葉した枝に径12-15cmほどの大きな花を咲かせ、一面が桃色になります。街路樹として多く利用されています。

西表島の似たものの植物

ギンネム

vs.

ベニゴウカン



区 分	木本類 (別名：ギンコウカン)
分 布	沖縄、小笠原、世界各地の熱帯亜熱帯に帰化
葉 の 形	長卵形
葉 の 縁	全縁
葉 の 先	鋭形

区 分	木本類
分 布	沖縄県、メキシコ原産
葉 の 形	被針形
葉 の 縁	
葉 の 先	

葉 の 種 類	偶数羽状複葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	円形
実 の 種 類	豆果
花 ・ 萼 色	白色

葉 の 種 類	2回偶数羽状複葉
葉 の 付 方	互生
葉 の 基 部	
実 の 種 類	豆果
花 ・ 萼 色	赤色

説 明	南アフリカ原産の小高木で、高さ 8m 程度まで成長します。ネムノキに似ており、花は頭状花序で年中開花し白色で見た目はかわいい感じがします。一つの房に 10 個前後の種が入っています。日本には明治時代に飼料用、緑化用として持ち込まれましたが、若葉や芽にミモシンという毒素があり家畜がこれを食べると脱毛、繁殖障害、成長阻害等の弊害があります。繁殖力はとても旺盛で「世界の侵略的外来種ワースト 100」の一つに指定され、要注意外来生物になっています。
-----	--

説 明	ネムノキに似ており、マメ科の常緑低木。ヒゴウカン(緋合歓)ともいう。深紅色で線状の長いおしべが多数、かたまってついた頭花には繊細な、独特な美しさがあり、温室用花物や鉢物としても観賞されています。また熱帯では庭木としても植えられています。高さ 2m くらいになり、葉は 2 回羽状複葉で羽片は 4 ~5 対あり、多数の小葉がそれにつき、花冠は小さく赤色、漏斗状で先が深く 5 裂しており、おしべは 20 本くらいで、花の外に長く伸び出します。
-----	--

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

